

ヒロセ電機株式会社

2020年3月期 第3四半期 決算説明会 Q&A 要旨

Q1：

全社的な戦略について、来期以降の進め方についてなど、ちょっと変化が出てきた中での見解が知りたい。

A1：

来年度に関しては、まだ言及できないところでもあるが、マイクロコネクタ等の伸長や自動車向けの拡大や今後の変化に伴うニーズでのポテンシャルの高さにおいて確実に進めて業績を伸ばしていく方向で考えている。

Q2：

資本政策、還元策についての進捗、問題意識等をどう捉えているか。

A2：

業績によってROEが下降傾向なのは本意ではなく収益性を回復することを優先して考えている。また株主還元と成長投資の両面で進める意識もあり資本の圧縮も検討を進めているところ、収益性を上げることと合わせ、資本の効率も上げてROEを上げて行くと考えている。

Q3：

製品開発に関して、どれぐらい新製品がそろってきたと認識されているのか、売上が伸びるような開発ラインナップになってきたかどうか、という観点で教えてください。

A3：

自動車向け取組みは中長期的に進めてきており、ここから数年先の伸長での品揃えは相当充実させてきたつもり、今年度の市場動向は良くないが中期的な売上拡大に関しては可能と考えている。

Q4：

新型コロナウイルスに関して、ヒロセが生産立ち上げるにあたって、こういった制約条件があるか知りたい。

A4 :

まずは従業員・関係者の健康を第一に進めることが前提として、基本的には稼働に関わる人員がきちんと戻ってくることが重要と考える。

Q5 :

産機向けのところで一部、受注が反転してきているものもあるという説明でしたが、どの分野か？

A5 :

F A 関連の受注の一部。

Q6 :

スマホ関連、5G スマホでのプラス要因が知りたい。

A6 :

来年度伸びてくる期待感はあるが、今後の市場動向や競合関係から詳細については開示はしない。

Q7 :

1～3 月の動向を分野別に知りたい。

A7 :

スマホ向け、期待はあるが春節後のアジアの生産動向が不透明。産機向け底打ちから緩やかに回復の見込み。自動車向け一部で受注が反転してきているが、回復には時間がかかりそうにも思える。

免責事項

本資料には、ヒロセ電機の現時点における予測に基づく記述が含まれています。

これら将来に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性その他の要因が内在しており、当社における実際の業績と異なる恐れがあります。ご承知おき下さい。